

研究開発5 大学等との連携

1 目的と期待される効果

(1) 目的

グローバル社会の課題について研究している大学等の教授や研究者と連携し、大学の研究室を訪問するなどの講座を「G Lアクティブ」で設定して、最先端の研究に触れるとともに直接専門家の指導やアドバイスを受けることにより、グローバルな社会課題に対する関心と意欲を喚起する。また、課題研究の進め方やまとめ方の指導を受ける。

(2) 期待される効果

大学等の教授や研究者との交流を通して質の高い、現実味のある課題研究を行うことが期待できる。

2 内容

次の大学等と連携し、各講座を実施する。生徒は各自の興味・関心により希望する講座に出席する。

(1) 千葉大学

(2) 神田外語大学

(3) 筑波大学

(4) 東京外国語大学

※ 実施する主な講座

- ① グローバルな視点で捉えた言語学等に関する講座
- ① グローバルな視点で捉えた社会学等に関する講座
- ② グローバルな視点で捉えた地理歴史等に関する講座
- ③ グローバルな視点で捉えた芸術等に関する講座
- ④ グローバルな視点で捉えた数理学等に関する講座
- ⑤ グローバルな視点で捉えた体育等に関する講座
- ⑥ グローバルな視点で捉えた道德等に関する講座
- ⑦ 課題研究の進め方や発表方法の指導講座

3 実施方法

学校設定科目「G Lアクティブ」において行う。大学等の連携により受講した講座や研究室の訪問について参加した生徒については、実施後、報告書を提出し、提出された報告書及び活動の記録等を基に学校設定科目「G Lアクティブ」の評価に加える。

4 検証評価方法

検証方法は、生徒及び教員に対して、講座ごとに記名式4択式アンケートを実施する。その結果を連携した大学・学部へ提示し、大学・学部からの意見を評価に加える。

5 昨年度との変更点

(1) 千葉大学学生の主体的に取り組む研究活動に関わる講座を設けた。

生徒が主体的に研究に取り組む姿勢や研究方法を身に付ける一環として、大学生が主体的に取り組んでいる研究等に関わる講座を設けた。

(2) 千葉大学の先生に研究に係る相談ができるようにした。

課題研究を進める上で、専門的な見地からの指導・助言により質の高い研究となるよう、国際教養学部和田健准教授、小林聡子助教と連携しメールによる相談体制を構築した。

6 実施内容

(1) 『千葉大学ESDワークショップ』

ア 日 時 平成29年6月25日（日）午後1時30分～午後4時30分
イ 場 所 神田外語大学
ウ 対 象 5名（1学年希望者）
エ 目 標 ASEANからの留学生（千葉大学）とガムランの楽器演奏を通じて、異文化を理解するとともに、日本の歴史、伝統、文化を異なる視点から見つめる機会を持ち、研究課題を見つける一助とする。また、英語でのコミュニケーション能力を高める機会とする。

オ 講 師

皆川厚一先生（神田外語大学教授）、本多佐保美先生（千葉大学教育学部教授）

カ 内 容

(1) 参加者

ASEANからの留学生10名、千葉大学生5名、千葉大学教員等7名、神田外語大学生3名及び本校生徒5名

(2) 英語で自己紹介

(3) ガムランの楽器の演奏練習及び演奏・ケチャの演奏

キ 成果と課題

参加した生徒は、今までに体験することのなかった楽器の演奏を、英語でASEANからの留学生と確認しながら行うことを通じて、異文化を理解する体験ができた。日本の楽器等と比較し日本の文化についても考えを深めることができた。英語で演奏の打ち合せをしたり、グループで話し合いをしたりすることによって、英語でのコミュニケーションを図ることに自信をもつことができた。

(2) 『千葉大学環境ISO学生委員会について知ろう』

ア 日 時 平成29年8月4日（金）午前9時15分～午前11時30分
イ 場 所 千葉大学西千葉キャンパス
ウ 対 象 10名（1，2学年希望者）
エ 目 標 環境マネジメントシステムに主体的に取り組んでいる千葉大学環境ISO学生委員会の活動を知ること、高校生ができる環境問題解決に向けた取り組みについて考えるとともに、課題研究の一助とする。
オ 内 容 千葉大学環境ISO学生委員会に所属する学生にまず、彼らが実際に取り組んでいる「落ち葉の有効活用」や「緑のカーテン」を見学させていただいた。その後、活動内容や環境マネジメントシステムについてのプレゼンテーションを受け、質疑応答を行った。



カ アンケート結果

【GLアクティブ共通アンケート】(数値は回答数)

- ① 日本や地域の歴史・伝統・文化，社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
3人	6人	1人	0人

- ② 外国の歴史・伝統・文化，社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
2人	4人	4人	0人

- ③ 今回の GL アクティブの事柄を，外国人に英語で話すことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
0人	2人	5人	3人

- ④ 今回の GL アクティブの事柄を，友人等と話し合うことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
4人	6人	0人	0人

- ⑤ 今回の GL アクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
6人	3人	1人	0人

- ⑥ 課題研究に関する新たな（異なる）視点を得ることができた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
4人	5人	1人	0人

- ⑦ この GL アクティブは，課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
5人	5人	0人	0人

【生徒感想】

- ・千葉大学が実践しているエネルギー削減のための具体的な取り組みを知ることができた。
- ・ポスターやSNSを利用した活動普及であれば高校生にも実際に実現できそう。
- ・学生が主体となっているにも関わらず，企業と連携を図るなど，規模が大きく大変勉強になった。
- ・私たちの身近にできるエコ活動を探究していきたい。

キ 成果と課題

生徒の感想や当日の生徒の言葉から、学生主体で環境問題に取り組んでいることを知るとともに、具体的な取り組みを知ること、課題研究への意欲が高まったことがわかる。アンケートの結果にもあるように、課題研究のテーマを考える上で参考になった講座であった。今後は参加人数を増やすことが課題であり、生徒が研究を進める上でISO学生委員会との継続的な関わりを模索することが必要である。

(3)『千葉大学SGH研修』

ア 日 時 平成29年10月3日(火) 午後1時～午後4時

イ 場 所 千葉大学西千葉キャンパス

ウ 対 象 4名(1学年希望者)

エ 目 標 多文化共生等のグローバルな問題に関連する分野を研究している研究室を訪問し、課題研究について指導助言を受けることで研究を深める。

オ 講 師 千葉大学国際教養学部助教 ガイタニディス ヤニス先生

カ 内 容

各自が設定した課題研究のテーマについて発表した後、テーマを具体化していくために、ヤニス先生の方からタスクが与えられた。そのタスクとは次のとおりである。

①今回の研究における理想的な答えから逆算して質問を考えること。

質問を考えるにあたって、質問には描写的、探索的、評価的、予想的、説明的の5種類があるとの説明があった。

②研究課題の要素を1個ずつ検討すること。

③研究課題の要素を分解し、分類化すること。

④課題の入れ子階層(一次的、二次的、三次的質問)を作ること。

キ 成果と課題

生徒は、タスクを通じて、課題をより具体的に設定しようとしていた。後日、学校で同じグループの生徒と課題の具体化に取り組むことを指示した。研究したい課題について改めて考える機会になったと思われる。教員にとっても課題の絞り込みを指導する際の参考になった。

(4)「筑波大学SGH研修」

ア 日 時 平成29年10月3日(火) 午前8時～午後3時

イ 場 所 筑波大学

ウ 対 象 25名(1年希望者)

エ 目 標 多文化共生等のグローバルな問題に関連する分野を研究している研究室や授業等を見学し、SGH課題研究の一助とする。

オ 講 師 筑波大学人文社会系准教授 柏木 健一先生

カ 内 容

柏木先生による、アラブ革命後の中東・北アフリカ問題の見方についての模擬講義後、学内の図書館を見学した。

キ 成果と課題

柏木先生の模擬講義では、アラブ革命の発生要因を社会的、経済的背景から考えることにより、物事を様々な側面から捉え、因果関係を読み解く大切さを学んだ。また中東、北アフリカ諸国の政治的、経済的不安定さが、世界情勢に大きく影響していることを学び、今まで遠くの地域のことと思っていた中東、北アフリカ諸国の情勢について深く考える良い機会となった。

しかし、感想を見る限りではアラブ革命について学習したというだけで終わっている生徒がいる。学んだことを基に、情勢安定のために、日本にいる私たちがどのようにして関わるができるのかを考えられるようになることが今後の課題となるだろう。

図書館見学では1グループ8名～9名の3グループに分かれて見学した。短時間での見学であったので、各階の施設の説明を聞くだけになってしまった。簡単なテーマを設定し、それについて実際に司書の方にアドバイスをいただきながら、調べる機会を設けることができるとより良い研修となるとと思われる。



（５）『東京外国語大学』

ア 日 時 平成29年10月3日（火）午前7時～午後3時

イ 場 所 東京外国語大学府中キャンパス

ウ 対 象 20名（1学年希望者）

エ 目 標 多文化共生等のグローバルな問題に関連する分野を研究している研究室や授業等を見学し、SGH課題研究の一助とする。

オ 講 師 田中 孝史先生

カ 内 容 東京外国語大学に関する説明を受けた後、模擬講義『危機言語って何だ？』を受講する。「世界の言語の数は？」、「言語の特徴で面白いものは？」、「グローバル化とは？」、「危機言語とは？」というテーマで講義を進めていただき、生徒も言語学という学問の深さを認識し、様々な発見をしたようである。その後、施設見学をした。

キ アンケート結果

【GLアクティブアンケート】（数値は回答数）

① 日本や地域の歴史・伝統・文化，社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあってはまる	だいたいあってはまる	あまりあってはまらない	全くあってはまらない
12人	8	0人	0人

② 外国の歴史・伝統・文化，社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあってはまる	だいたいあってはまる	あまりあってはまらない	全くあってはまらない
12人	8人	0人	0人

③ 今回のGLアクティブの事柄を，外国人に英語で説明することができる。

おおいにあってはまる	だいたいあってはまる	あまりあってはまらない	全くあってはまらない
0人	5人	13人	2人

④ 今回のGLアクティブの事柄を，友人等と話し合うことができる。

おおいにあってはまる	だいたいあってはまる	あまりあってはまらない	全くあってはまらない
7人	13人	0人	0人

⑤ 今回のG Lアクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
5 人	8 人	7 人	0 人

⑥ 課題研究に関する新たな（異なる）視点を得ることができた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
5 人	1 1 人	4 人	0 人

⑧ このG Lアクティブは、課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
2 人	4 人	1 3 人	1 人

【生徒感想】

- ・危機言語について理解が深まった。自分が思ったより多くの言語があってびっくりした。
- ・何か自分たちに大きな事ができることではないが、興味関心を持ち、たくさんの人と話す必要があると感じた。
- ・言語は知識や知恵の総体なので、これからも言語はしっかり守っていかなければならないと、改めて感じた。
- ・グローバル化の言語に与える影響がよくわかった。
- ・今まで興味を持っていなく、聞こうとすらしなかったことに関して聞くことができ、とても良かった。
- ・言語と方言の線引きの難しさや危機言語の多さを知った。
- ・言語学がこんなに奥が深い学問だと思っていませんでした。



ク 成果と課題

学校や報道等で多く取り扱われる話題で無いものを、専門家の分析や研究も含めて聞くことができ、言語学の奥深さを実感できる講義であった。言語にはその背後にそれを使用する人々の文化・歴史・知識・知恵等が存在し、一つの言語が消滅することは、その背景にあるものが消滅することだと気付かされ、グローバル化により、文化の多種多様性が消滅していくことは大きな問題であることに行き着いたようだ。

講義の際に提示していただいた検索アドレスも複数有り、生徒は、課題解決に向けて活用することができる。大変有効な研修であった。

（6）『千葉大学の留学生に紹介する佐倉』

ア 日 時 平成29年10月28日（土）午後1時～午後4時30分

- イ 場 所 国立歴史民俗博物館，武家屋敷，本校地域交流施設展示室
- ウ 対 象 12名（1学年希望者）
- エ 目 標 タイ，インドネシア，カンボジア等からの留学生に英語で佐倉市を紹介することを通じて，佐倉の歴史，伝統，文化を異なる視点から見つめる機会を持ち，研究課題を見つける一助とする。また，英語でのコミュニケーション能力を高める機会とする。
- オ 内 容 千葉大学の海外からの留学生18名に佐倉市内の武家屋敷や本校地域交流施設展示室に所蔵されている歴史的資料を英語で説明した。



（武家屋敷を留学生に説明しています。）

（ハルマ和解について説明しています。）

カ 成果と課題

生徒は当日まで英語で説明できるか不安だったようだが，歴史公民科・英語科教員による事前指導の成果で，予想していた以上に英語で説明ができていた。生徒は積極的にコミュニケーションを図っていた。また，異文化を受け入れること，日本や外国の歴史・地理を学ぶことの重要性等認識できたようだった。今後は英語で説明する練習を，ALTを留学生にみたてて現地で実際に説明してみる等，事前指導をさらに充実させていきたい。

（７）『SGH海外研修（ドイツ派遣）特別講義』

- ア 日 時 平成29年12月8日（金）放課後
- イ 場 所 本校地域交流施設
- ウ 対 象 SGH海外研修（ドイツ派遣）参加者10名
- エ 目 標 SGH海外研修（ドイツ派遣）に向けて，初級ドイツ語を学習するとともにドイツ事情に関する知識を得る。
- オ 講 師 千葉大学国際教養学部准教授 清野 智昭先生
ドイツ人留学生（デュッセルドルフ大学在籍，千葉大学留学中）
- カ テーマ ドイツ語初級とドイツ事情
- キ 内 容 派遣時に現地で円滑なコミュニケーションが図れるように，基礎的なドイツ語の知識を習得するとともに，ドイツ人留学生と会話を練習した。さらに，ドイツ人と交流する上で留意すべき文化的な違いや歴史的な背景に基づく慣習の違いについて，お話しいただいた。特別講義を受けて，生徒達はドイツ人とのコミュニケーションに対して意欲が高まったようだった。



(8) 『課題研究に係る個別相談 ～千葉大学～』

ア 日 時 平成29年6月～12月

イ 対 象 2学年普通科生徒

ウ 目 標 課題研究における方法・内容について、個別に専門的立場から指導・助言を行うことで、研究の質を高める。

エ 方 法 生徒が直接メールで行った。

【相談例】

Q ハラルラーメンについて研究をしています。説明用ポスターを作成しましたのでご助言をいただけないでしょうか。

A 添付されました資料を拝見しました。ハラルフードと関連させてのラーメンの販売戦略は面白いですね。下部に記された suggestion の詳細をもう少しみたいなと思いました。ハラルフードに対する理解は、あまり日本にはないので、ラーメンもさることながら、そこがより詳しく説明されているとよいな、と思いました。ハラルフードに目をつけたのはとてもいいですね。

Q シンガポールで戦争体験の語り部の研究について発表します。発表の原稿を御覧いただきアドバイスをいただきたいのですが可能でしょうか。

A 戦争体験の語り部についても面白い試みですね。高校生も話を聞く小学生も、戦争を経験していない同じ立場であることを意識した聞き語りができるとういなと思います。高校生が、戦争経験者から何を学んで、どう小学生に伝えていくか、なかなか難しい試みですね。しかし経験はなくても想像をしながら語り手と聞き手が共有する方法を構築することは、今後の可能性も感じます。

オ 成果と課題

個別対応なのですべてのやりとりを把握してはいないが、かなり踏み込んだ相談もあったようである。今年度になってからの取組みであるが、相談した生徒の研究は、質の高い研究になりつつあり、専門的な立場からの助言は、課題研究を進める上で大変有効であった。

研究開発6 企業，国際機関等との連携

1 目的と期待される効果

(1) 目的

グローバルな視点で社会貢献している企業や研究施設等と連携し，グローバル社会の現状や課題について講義や講演を受けることで，グローバルな社会課題について実感するとともに，グローバル社会で活躍できる人材としての在り方や生き方を知る。また，グローバル社会で活躍している人からアドバイスや指導を受ける。

(2) 期待される効果

グローバル社会で活躍できる人材としての在り方や生き方について考えを深めることで，グローバル・リーダーとしての資質や態度を身に付けることが期待できる。また，グローバル社会で活躍している人との交流を通して質の高い，現実味のある課題研究を行うことが期待できる。

2 内容

企業等と連携し，各講座を実施する。生徒は各自の興味・関心により希望する講座に出席する。

3 実施方法

学校設定科目「G Lアクティブ」において行う。企業等の連携により実施した講座や企業の研究室等に訪問した生徒は，終了後，実施報告書を提出する。提出された報告書及び活動の記録等を基に学校設定科目「G Lアクティブ」の評価に加える。

4 検証評価方法

検証方法は，生徒及び教員に対して，取組ごとに記名式4択式アンケートを実施し，その結果と連携した企業等からの評価をもとに検証する。

5 実施内容

(1)『日本政策金融公庫 ビジネス課題を深めよう』

ア 日 時 平成29年5月26日（金）午後12時50分～午後2時

7月18日（火）午後1時30分～午後3時

7月24日（月）午後4時～午後5時

イ 場 所 地域交流施設（5月26日（金）及び7月18日（火））

日本政策金融公庫 千葉支店（7月24日（月））

ウ 対 象 2学年ビジネス課題研究グループ及び1学年希望者

エ 目 標 専門的な見地から指導・助言を受けることでプランニング力を高め，取り組んでいる課題研究を一層深める一助とする。

オ 内 容

（ア）5月26日（金）・7月18日

5月26日にG L探究で実施した講演（ビジネスアイデアの発想法などの入門的なものから，実際にビジネスプランを作成するための実践的なものまでの説明）を踏まえ，ビジネス課題の解決にむけたビジネスプランについてグループごとに指導・助言を受けた。

※ ビジネスプランとは地域の課題や環境問題などの社会的な課題を解決し、人々の生活や世の中の仕組みをより良いものに変えるために、ビジネス面からのアプローチを考えるものである

(イ) 7月24日(月)

ビジネスプラン発表会

ブラッシュアップしたビジネスプランをビジネスプランコーディネーターに発表し、フィードバックをもらい、より実現性の高いプランに深めていった。生徒が取り上げたテーマは、食品ロス、食料問題、過疎化問題などである。



カ アンケート結果

【GLアクティブ共通アンケート】(数値は回答数、3回とも出席した生徒のみ)

① 日本や地域の歴史・伝統・文化，社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
5人	2人	0人	0人

② 外国の歴史・伝統・文化，社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
2人	4人	1人	0人

③ 今回のGLアクティブの事柄を，外国人に英語で話すことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
0人	1人	5人	1人

④ 今回のGLアクティブの事柄を，友人等と話し合うことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
6人	1人	0人	0人

⑤ 今回のGLアクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
5人	2人	0人	0人

⑥ 課題研究に関する新たな(異なる)視点を得ることができた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
7人	0人	0人	0人

⑦ このGLアクティブは，課題研究テーマを考えるのに役立った。

おいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
4人	3人	0人	0人

【生徒感想】

- ・自分たちだけでは思いつかない視点からのアドバイスをもらい、新しく考えるきっかけになった。
- ・実現可能になるようにアイデアを詰めていきたい
- ・類似のサービスを提供している施設などに行って調査を行い、他との差別化を更に図っていく必要を感じた。

キ 成果と課題

地域課題や、環境問題などの社会的な課題への解決に向けて、悩みながらビジネスプランを作成していく過程を通じて、課題研究を進める上で必要な問題解決能力、論理的思考力を養う機会になった。ただし、このような活動に参加する生徒を増やしていくことが昨年に引き続き課題として残った。

（２）『東京入国管理局 難民問題を考えよう』

ア 日 時 平成29年7月27日（木）午前8時～午後4時40分

イ 場 所 東京入国管理局本局（品川），同・羽田支局（羽田）

ウ 対 象 53名（1・2学年希望者）

エ 目 標 2年生は課題テーマについて理解を深める一助とする。1年生は「難民問題」についての講義を通して、課題テーマ決定の一助とする。

オ 内 容

日本における難民申請の実情や入国管理について説明を受け、施設内を見学した。

難民申請の大幅増と認定数が少ないという現状にはどのような背景があるのか、同じ事象であっても、報道機関の視点が入ることで報道のされ方が違うことが様々な資料とともに示された。また、公正な審査、人権への配慮、人々の安全を守ること、難民を偏見無く隣人として受け入れることの重要性等、考えるべき様々な問題についても話があった。羽田支局ではパスポートの偽変造を見分ける体験や出入国手続きの様子の見学も行った。



カ アンケート結果

【GL アクティブ共通アンケート】（数値は回答数）

① 日本や地域の歴史・伝統・文化，社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
23人	23人	7人	0人

② 外国の歴史・伝統・文化，社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
31人	17人	5人	0人

③ 今回の GL アクティブの事柄を，外国人に英語で話すことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
2人	12人	31人	8人

④ 今回の GL アクティブの事柄を，友人等と話し合うことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
18人	33人	1人	1人

⑤ 今回の GL アクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
12人	21人	18人	2人

⑥ 課題研究に関する新たな（異なる）視点を得ることができた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
10人	22人	19人	1人

⑦ この GL アクティブは，課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
10人	27人	14人	2人

【生徒感想】

- ・一つの問題でも多面的に観る必要がある。何でも鵜呑みにするのではなく，自分でも充分な情報を得て，比較したり取捨選択したりする必要がある。
- ・難民問題は綺麗事だけでは済まされない。受け入れる場合，その子孫までが気持ちよく暮らせるようにしていくこと，同情や偏見を持たずに向き合うことを考える必要がある。
- ・今後大勢の外国人と暮らすのに適した環境を作っていく必要がある。そこで自分達に何ができるかを考える必要がある。

キ 成果と課題

これから課題研究に取り組む1年生の参加が多い中で，一つの問題について十分な情報を得ること，多角的に比較検討することの重要性を示していただき，研究を進めていく上での参考になった。また，問題の複雑さ，大きさも再認識でき，自分にできることは何か，どこに焦点を当てて研究していくべきかを考える機会になったようである。

せっかくの機会であるので，特に2年生から自分の研究課題について，より焦点を絞った深い質問ができるとよかったが，実施日程の都合もあり，2年生の参加が少なかった。

（3）『歴博+千葉大留学生プロジェクト見学』

ア 日時 平成29年8月1日（火）正午～午後3時30分

イ 場所 国立歴史民俗博物館

ウ 対 象 9名（1，2学年希望者）

エ 目 標 千葉大学留学生が着目する日本の歴史や文化について考察し，研究課題を見つける一助とする。

オ 内 容

千葉大学で学ぶ留学生たちが，「ここを見ると日本の歴史や文化が理解しやすい」，「ここが面白い」と考えた内容を，母国語で作成したワークシートを通じて表現する。その発表を見て考えを深めるとともに，留学生と意見交換を行った。



カ アンケート結果

【GLアクティブ共通アンケート】（数値は回答数）

① 日本や地域の歴史・伝統・文化，社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
7人	1人	1人	0人

② 外国の歴史・伝統・文化，社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
6人	2人	1人	0人

③ 今回の GL アクティブの事柄を，外国人に英語で話すことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
0人	2人	7人	0人

④ 今回の GL アクティブの事柄を，友人等と話し合うことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
4人	3人	2人	0人

⑤ 今回の GL アクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
3人	3人	2人	1人

⑥ 課題研究に関する新たな（異なる）視点を得ることができた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
5人	2人	2人	0人

⑦ この GL アクティブは，課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
5人	2人	2人	0人

【生徒感想】

- ・日本と中国のそれぞれの視点で展示を見ることができたのがよかった。
- ・世界を学ぶことも大切ではあるが、自国のことについてももっと知る必要性を感じた。
- ・留学生の方とも話すことができ、とても良い機会になった。また、留学生の方たちの「知ろう」とする姿勢がとても刺激になった。

（４）『歴博を知ろう！～「グローバル」な歴史を学ぶ～』

ア 日 時 平成２９年８月２３日（水）午後１時３０分～午後４時

イ 場 所 国立歴史民俗博物館（佐倉市）

ウ 対 象 ５名（１学年希望者）

エ 目 標 日本の１９世紀後半の近代の出発から１９２０年代までの展示をもとに日本の近代史を学び課題研究の一助とする。

オ 内 容

国立歴史民俗博物館樋浦郷子先生より、第５展示室（近代）のポイント解説をしていただいた。先生は博物館の展示を見るポイントとして、「だらだら見ない」、「自分の見たい興味のある展示を見て紹介する」、「国境を超える事象か」などを挙げられ、海外からの視点や歴史と災害の関係も踏まえ生徒にわかりやすく解説していただいた。また、解説後、生徒全員からさまざまな視点の質問があり、課題研究の一助になった。

カ アンケート結果

【GL アクティブ共通アンケート】（数値は回答数）

① 日本や地域の歴史・伝統・文化，社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいに当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
３人	２人	０人	０人

② 外国の歴史・伝統・文化，社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいに当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
３人	２人	０人	０人

③ 今回の GL アクティブの事柄を，外国人に英語で話すことができる。

おおいに当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
０人	１人	４人	０人

④ 今回の GL アクティブの事柄を，友人等と話し合うことができる。

おおいに当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
０人	５人	０人	０人

⑤ 今回の GL アクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいに当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
０人	３人	２人	０人

⑥ 課題研究に関する新たな（異なる）視点を得ることができた。

おおいに当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
４人	１人	０人	０人

⑦ この GL アクティブは，課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいに当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
０人	４人	１人	０人



(第5展示室内の様子)



(外国人や小学生にも説明しやすい資料)

【生徒感想】

- ・ 先生の話がとても面白く歴史に興味がわいた。自分もそれくらい英語で語れるようになりたい。
- ・ 新しい文化や技術を次々に取り入れることと同時に、日本の伝統も大事にしていけないと思った。
- ・ 事実に対し見方が複数あることを改めて実感した。
- ・ 教科書に書いてあることは、本当に主な部分が書いてあってももちろん入試やテストで正解をもらうために勉強してきたが、書いていないことに着目した時により面白さがわかってくると思う。
- ・ もし自然災害がなかったら、日本を開国させたのは歴史上有名なペリーでなかったかもしれないと知って、もっといろいろな出来事を知りたいと思いました。

キ 成果と課題

日本の歴史伝統文化を踏まえて、グローバルな問題を考える一助となった。生徒はさまざまな角度から歴史的事象を見る力が培われたようだ。今後、より身近にある国立歴史民俗博物館を活用し、日本の歴史伝統文化を踏まえた課題研究（例えば外国人に日本の歴史伝統文化を楽しんでもらうには）をしていく必要がある。

(5)『東京ジャーミイ』

ア 日 時 平成29年8月2日(水) 午後1時50分～午後4時30分

イ 場 所 東京ジャーミイ・トルコ文化センター(東京都渋谷区)

ウ 対 象 45名(1学年希望者)

エ 目 標 イスラーム寺院を訪れ、イスラーム文化に直接触れることにより正しい理解を図り、「GL世界史」の学習内容を踏まえて、多文化共生社会構築について考える。また、「GL探究」における研究課題を設定する一助とする。

オ 内 容

東京ジャーミイ広報担当の下山茂氏による、イスラームの考え方、日本とトルコの交流の歴史等に関する講義の後、モスク、礼拝堂の見学を実施した。

当日、たまたま礼拝・見学に訪れていたムスリムの旅行者(インド、インドネシア、セネガル)の礼拝の様子を見学し、彼らに話を聞く機会を下山氏が設定し、生徒から様々な質問がでた。その内容は、「女性のスカーフの巻き方を教えて欲しい」「何故日本に来たのか」といったものから「礼拝の持つ意味」「イスラーム教徒から見た日本」「イスラーム教徒にとって神とはどのようなものなのか」といった、宗教の本質に関わる物

まで多彩であったが、ほぼ全ての質問に丁寧に答えていただいた（質疑応答は英語）。

カ アンケート結果

【GLアクティブ共通アンケート】（数値は回答数）

- ① 日本や地域の歴史・伝統・文化，社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあってはまる	だいたいあってはまる	あまりあってはまらない	全くあってはまらない
20人	24人	1人	0人

- ② 外国の歴史・伝統・文化，社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあってはまる	だいたいあってはまる	あまりあってはまらない	全くあってはまらない
27人	18人	0人	0人

- ③ 今回の GL アクティブの事柄を，外国人に英語で話すことができる。

おおいにあってはまる	だいたいあってはまる	あまりあってはまらない	全くあってはまらない
2人	11人	28人	4人

- ④ 今回の GL アクティブの事柄を，友人等と話し合うことができる。

おおいにあってはまる	だいたいあってはまる	あまりあってはまらない	全くあってはまらない
16人	28人	1人	0人

- ⑤ 今回の GL アクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあってはまる	だいたいあってはまる	あまりあってはまらない	全くあってはまらない
5人	21人	19人	0人

- ⑥ 課題研究に関する新たな（異なる）視点を得ることができた。

おおいにあってはまる	だいたいあってはまる	あまりあってはまらない	全くあってはまらない
10人	21人	14人	0人

- ⑦ この GL アクティブは，課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいにあってはまる	だいたいあってはまる	あまりあってはまらない	全くあってはまらない
4人	26人	15人	0人

【生徒感想】

- ・イスラームのモスクを初めて見たが，非常に美しかった。もっと殺風景な物だと思っていたので，新鮮な驚きがあった。
- ・イスラーム教は厳格で重いイメージがあったが，信仰することにより，常に神が共に居るという考えを持つことができ，心が楽になるものだという事を知った。
- ・1日5回の礼拝は食事と同じで，心に栄養を補給するものだという話を聞いて，イスラーム教に対するイメージが変わった。
- ・様々な報道のせいでイスラーム教に対して「怖い」というイメージを持っていたが，むしろイスラーム教は平和の宗教なのだという事を知ることが出来た。

キ 成果と課題

異文化に接触し，それまで抱いていた誤解や偏見を改めるという意味では良い機会となった。また，イスラーム教は世界の人口の1/4が信仰していること，最大のイスラーム教国は中東の国ではなくインドネシアであること等を知ることにより，イスラーム教は遠い異世界のものではなく，自分たちが接する機会が決して少なくないことを知ることができた。意識面でのグローバル化のきっかけになたと考えられる。

夏休み明け最初の「GL世界史」の授業において，自分たちが知ったこと，考えたことを各自1分間ずつクラスで発表させたが，感じたことをクラスに伝えるのには苦勞をしていたようである。考えを伝える力を高める必要がある。